

# 大飯、運転再開に遅れ

## 3号機 損傷配管を交換

関西電力は19日、大飯原発3号機（福井県おおい町）にある亀裂が見つかった配管について、7月に始めた今回の定期検査中に交換すると発表した。当初9月下旬を予定していた運転再開は、数カ月単位で遅れる見通しだ。

大飯3号機では8月31日以降、原子炉格納容器を通った1次冷却水が循環する配管と、その圧力を調整する配管との溶接部に長さ6・7センチ、深さ4・6ミリの亀裂が見つかった。関電は当面の運転には問題がないとみていたが、報告を受

けた原子力規制委員会が判断に疑問を投げかけたことで、早期交換に踏み切った。

10月中旬に規制委へ工事の方法などを申請し、認可を得た上で交換作業に入る。

交換する配管の範囲や作業に要する期間は未定だが、工事後に受ける検査の期間も踏まえると運転再開には数カ月程度かかるという。

関電の原発は福井県にある7基中、4基が再稼働済みだが、現在は大飯4号機のみが動いている。同機が定期検査に入る11月3日以降は稼働中の原発がゼロになる見込みだ。（橋本拓樹）